

平成23年度 文部科学省「博士課程教育リーディングプログラム」

# 放射線災害復興を推進する フェニックスリーダー 育成プログラム

*Phoenix Leader Education Program (Hiroshima Initiative)  
for Renaissance from Radiation Disaster*

## 自己評価報告書 – Self- study Report – 2012.12



広島大学  
– Hiroshima University –

## はじめに

「放射線災害復興を推進するフェニックスリーダー育成プログラム」は、原爆災害からの復興を支えた広島大学の経験と国の三次被ばく医療機関としての実績を背景に、幅広い学際的な知識を基盤として放射線災害に適切に対応し、明確な理念の下で復興を指導できる判断力と行動力を有したグローバルリーダー（フェニックスリーダー）を育成することを目指した博士課程学位プログラムです。本プログラムは、広島大学内の 8 研究科・部局、福島県立医科大学、東北大学、福島大学、長崎大学、放射線影響研究所及び放射線医学総合研究所の総勢 49 名のプログラムメンバー並びに IAEA, WHO, 国際赤十字社や国内外の多くの研究機関や企業との連携により推進しています。

従来、日本の大学での博士人材の育成は、1 研究科に所属する少数の教員グループで行われており、11 研究科を擁する総合研究大学である広島大学でも同様でした。このような教育環境では、現代社会の複雑かつ多様な問題の解決に貢献できる、俯瞰力と独創力、コミュニケーション力を備え、広く産学官にわたりグローバルに活躍するリーダーを育成することは困難です。本プログラムは、文部科学省が 2011 年度より開始した、大学院教育の抜本的改革を促進し産学官を巻き込んだ世界に通用する質を備えた、4 年あるいは 5 年一貫の学位プログラム、すなわち「博士課程教育リーディングプログラム」の複合領域型（分野横断）として採択され、2017 年度まで支援を受ける予定です。

本プログラムの構想にあたっては、様々な分野の教員と 1 年近く議論を重ねることで、広島大学を中心に国内外の教育研究機関と連携した、世界初の分野横断型博士課程教育プログラムである「フェニックスリーダー育成プログラム」を提案することができました。一方、複数の部局、大学、機関からなる教育プログラムを推進することは容易ではありません。運営会議や全体会議は各機関をつないだテレビ会議システムを用いて開催していますが、一度も出席したことがないメンバーもあり、プログラム責任者としての指導力のなさや責任を痛感しています。また、本プログラムを履修することで、学生は本当に「フェニックスリーダー」として育つのであろうかと日々自問自答をしています。

2012 年 10 月 1 日には、留学生、社会人を含む様々な専門分野出身の 8 名の学生が第 1 期生として入学し、現在、社会行動論、ヒロシマ平和学、放射線生物学入門、ヒロシマ復興史、アドバンスド・イングリッシュなどの共通科目を受講し、勉学に励んでいます。

本報告書は、本プログラムの、目的、実施体制、担当者及び教育支援者、学生の受け入れ状況、教育内容及び方法、教育成果の検証・評価、学生支援等、施設・設備の整備状況、教育の質の向上及び改善のためのシステム、などについて、自ら省察した結果を示したものです。本報告書に基づいて、国内外の産学官界の有識者の皆さんによる評価とご助言を頂くことで、本プログラムを全世界の期待に応える人材育成プログラムとしてさらに成長させていきたいと考えています。忌憚のない評価・助言を賜れば幸いです。

平成 25 年 1 月

広島大学大学院 放射線災害復興を推進するフェニックスリーダー育成プログラム  
プログラム責任者 広島大学 理事・副学長 岡本 哲治



# 目 次

基準 1	目的	1
基準 2	実施体制	4
基準 3	担当者及び教育支援者	8
基準 4	学生の受け入れ状況	11
基準 5	教育内容及び方法	16
基準 6	教育の成果	23
基準 7	学生支援等	24
基準 8	施設・設備	28
基準 9	教育の質の向上及び改善のためのシステム	29



## 基準 1 目的

**観点** 本プログラムの目的が、文部科学省による「博士課程教育リーディングプログラム」の目的である「俯瞰力と独創力を備え広く産学官にわたりグローバルに活躍するリーダー」の育成に合致したものであるか。

### 【観点に係る状況】

福島第一原子力発電所事故は、原発災害が人的障害や環境放射能汚染だけではなく、人々にそれらに対する不安やストレスの増大をもたらし、ひいては社会そのものを破綻させることを示した。原爆からの復興を支えてきた広島大学による本プログラムは、このような放射線災害の複合的な被害からの復興を横断的かつ統合的にマネジメントする「フェニックスリーダー」を育成することを目的とする。

制度的には、広島大学大学院規則を一部改正し、5年一貫制の博士課程を設けると同時に、本プログラムの目的を規則等に規定することにより明確にした。

また、広島大学学位規則を一部改正し、本プログラムの学生が博士の学位の取得した場合に外から見てわかるようにした。

### 【分析結果とその根拠理由】

原発災害からの復興は、特定の学問分野だけで解決可能な問題ではなく、産業、政治と幅広い分野を横断的、俯瞰的に見る視点が必要であり、本プログラムが育成するフェニックスリーダーは、「博士課程教育リーディングプログラム」の掲げる「俯瞰力と独創力を備え広く産学官にわたりグローバルに活躍するリーダー」に適合している。

#### ★資料 1-A 博士課程教育リーディングプログラム 平成 23 年度プログラム実施状況報告書 (抜粋)

福島第一原子力発電所事故を受け、広島大学は、延べ 1,200 名以上に及ぶ「緊急被ばく医療援助チーム」を派遣し、福島における緊急被ばく医療体制の確立・維持を指導してきた。原発災害では、人体障害や環境放射能汚染だけでなく、環境放射能汚染に対する不安とストレスの増大により、結果的に人や社会までもが破綻されることが明らかとなった。また、今回の原発災害への対応から、放射線被ばくに関する正確な学術基盤に基づいて、さまざまな分野で正しく社会をマネジメントすることができる人材が絶対的に不足していることが明らかになった。このような人材は、国際的にもその育成が緊急課題となっている。即ち、21 世紀社会では、医療や産業での放射線利用や開発国での原子力開発はますます加速しており、国際情勢の不安定化は核テロの脅威さえも生んでいる。その一方で、放射線の安全を担保するシステムの脆弱性が明らかになっており、このような社会状況の変化に対応し、放射線安全や放射線防護、そしてそれが破綻した場合の放射線災害の軽減やその復興を指導できるグローバル・リーダーの育成が国際的に求められている。このような人材の育成には、放射線災害医療を核に環境科学、社会科学や教育学等の幅広い学際領域を包括的に統合した新しい学術である「放射線災害復興学」を基盤とした高度な教育が不可欠である。しかし、その必要性和緊急性にもかかわらず、それを実施できる機関は国際的に

も極めて限られている。広島大学は、原爆からの復興を支えた実績を有することから、広島大学こそが放射線災害からの復興を「横断的かつ統合的にマネージできる人材」を育成できる最も高い能力を有する総合大学であり、このような人材の育成こそ原爆被災を経験した広島大学の使命と考えている。

★資料 1 - B 広島大学大学院規則（抜粋）

（博士課程リーダー育成プログラム）

第 25 条の 2 独創的に課題に挑み、幅広い知識をもとに物事の本質を見抜く力等を備えたリーダーを育成するため、従来の学問分野・研究領域の枠組みを超えた学位プログラムとして、博士課程リーダー育成プログラムを開設する。

2 博士課程リーダー育成プログラムに関し必要な事項は、別に定める。

★資料 1 - C 広島大学学位規則（抜粋）

別記様式第 3 号(第 16 条関係)

第 2 条第 2 項の規定により授与する学位記の様式

(博士課程リーダー育成プログラムを修了した場合)

学位記	割 印 第 号
	氏名
	年 月 日生
本学大学院〇〇研究科〇〇専攻の博士課程(〇〇プログラム)を修了したので博士(「専攻分野」)の学位を授与する。	
	年 月 日
	広島大学 印

★資料 1 - D 広島大学大学院博士課程リーダー育成プログラム規則（抜粋）

(目的)

第 2 条 博士課程リーダー育成プログラムは、従来の学問分野・研究領域の枠組みを超えて、独創的に課題に挑み、幅広い知識をもとに物事の本質を見抜く力等を備えたリーダーを育成することを目的とする。

★資料 1 - E 放射線災害復興を推進するフェニックスリーダー育成プログラム履修細則（抜粋）

(教育研究上の目的)

第 2 条 フェニックスリーダー育成プログラムは、医学、環境学、工学、理学、社会学、教育学、心理学等の各専門学術分野を結集して「放射線災害復興学」を確立し、放射線災害に適正に対応し、明確な理念の基で復興に貢献できる判断力と行動力を有した国際的に活躍できる分野横断的統合型グローバルリーダー(フェニックスリーダー)の育成を目的とする。

- ★資料 1 - F 博士課程教育リーディングプログラム（平成 23 年度採択）現地視察時（H24. 5. 24）  
説明資料（抜粋）

### 広島大学の改革と本プログラム

#### 広島大学の長期ビジョン —10年から15年後の広島大学像—

- ・自由で平和な一つの大学
- ・人間性の涵養と教育の質の高度化
- ・教職員一体の大学運営
- ・特色ある研究の発展
- ・柔軟な教育研究体制の構築

#### 第二期中期目標・中期計画

- ・特長的な分野で世界的教育研究拠点を形成
- ・学部・研究科組織の見直し(平成22年4月1日～)

#### 大学院リーディングプログラム機構

- ・強い分野において目的指向型の大学院教育
- ・従来の研究科を横断した教育組織を形成(平成23年10月1日設置)

#### フェニックスリーダー育成プログラム

- ・放射線災害は全世界、地球規模に影響を及ぼすグローバルな問題
- ・放射線災害からの復興を支援する人材育成は被災国日本の義務
- ・原爆からの復興を支えた広島大学こそ可能なプログラム

## 基準 2 実施体制

観点 2-① プログラムにおける指導・支援体制が、プログラムの目的を達成するために、適切なものとなっているか。

### 【観点に係る状況】

平成 23 年 10 月 1 日に設置した、広島大学大学院リーディングプログラム機構（以下「リーディングプログラム機構」という。）を基盤として、研究科や専攻の枠を超えた指導・支援体制及び IAEA（国際原子力機関）、WHO（世界保健機関）、IFRC（国際赤十字・赤新月社連盟）等、国内外の多様な機関との連携協力体制を構築した。

また、連携協力に基づく指導体制構築の一環として次年度のフィールドワークに向けて、広島大学大学院放射線災害復興を推進するフェニックスリーダー育成プログラムフィールドワーク実施委員会（以下「フィールドワーク実施委員会」という。）を中心に準備に当たっている。

さらに、学生の課題の解決や軌道修正についての主任指導教員への伝達を円滑に行うため、広島大学大学院放射線災害復興を推進するフェニックスリーダー育成プログラム指導担当者会議（以下「指導担当者会議」という。）を置いた。

### 【分析結果とその根拠理由】

本プログラムの指導・支援体制は、文理を問わず多数の研究科からプログラム担当者を結集させ、放射線災害からの復興という社会全体に関わる総合的な課題に対処するため、分野横断的に指導可能な体制を整えている。

また、学生は、主任指導教員と副指導教員の複数からなる指導体制によって、特定分野に偏らず、事柄の全体を見通せるようなフェニックスリーダーの育成という目的に十分適うものとなっている。

#### ★資料 2-①-A 広島大学学則（抜粋）

（大学院）  
第 7 条 本学に、大学院を置く。  
2 大学院に、次の研究科及び研究院を置く。  
総合科学研究科  
文学研究科  
教育学研究科  
社会科学研究科  
理学研究科  
先端物質科学研究科  
医歯薬保健学研究科  
工学研究科  
生物圏科学研究科

国際協力研究科 法務研究科 医歯薬保健学研究院 工学研究院 3 大学院に、履修上の組織としてリーディングプログラム機構を置く。
---

## ★資料 2-①-B 放射線災害復興を推進するフェニックスリーダー育成プログラム運営内規(抜粋)

(構成)	
第 3 条 フェニックスリーダー育成プログラムは、次の表に掲げる組織の協力を得て、プログラムを構築する。	
広島大学	総合科学研究科，文学研究科，教育学研究科，社会科学研究科，理学研究科，工学研究科，生物圏科学研究科，医歯薬保健学研究科，原爆放射線医科学研究科所，自然科学研究支援開発センター，サステナブル・ディベロップメント実践研究センター(以下「研究科等」という。)
広島大学以外	福島大学，福島県立医科大学，(独)放射線医学総合研究所，(財)放射線影響研究所
(コース)	
第 4 条 フェニックスリーダー育成プログラムに、次の 3 コースを置く。	
区分	コース
4 年制学位プログラム	放射線災害医療コース
5 年制学位プログラム	放射能環境保全コース
	放射能社会復興コース

## ★資料 2-①-C 放射線災害復興を推進するフェニックスリーダー育成プログラム履修細則(抜粋)

(指導教員)
第 9 条 学生は、入学後 1 週間以内に、指導教員予定者の承認を得て所定の指導教員願をフェニックスリーダー育成プログラム責任者(以下「プログラム責任者」という。)に提出の上、学生が所属する研究科(以下「所属研究科」という。)にも提出するものとする。
2 プログラム責任者は、授業科目の履修指導及び研究指導を行うために、前項に規定する願い出に基づき学生ごとに指導教員を定める。
3 指導教員は、主任指導教員 1 人、副指導教員 3 人以上の計 4 人以上で構成する。
4 主任指導教員は、当該コースのプログラム担当者 1 人をあてるものとする。
5 副指導教員 1 人は、当該コースのプログラム担当者又は協力教員をあてるものとする。
6 副指導教員 2 人は、他コースから各 1 人をあてるものとし、他研究科のプログラム担当者をあてることもできるものとする。
7 学生は、指導教員の変更を希望するときは、関係指導教員の承認を得て所定の指導教員変更願をプログラム責任者に提出し、その承認を得なければならない。

★資料 2-①-D フェニックスリーダー育成プログラム指導教員届  
フェニックスリーダー育成プログラム自己点検報告書資料集  
「I 履修に関する資料」(I-10 参照)★資料 2-①-E 博士課程リーダー育成プログラムと所属研究科のすみわけ  
フェニックスリーダー育成プログラム自己点検報告書資料集  
「IV 事務に関する資料」(IV-1 参照～2 参照)

**観点 2-② プログラムにおける企画・運営・連携体制が、プログラムの目的を達成するために、適切なものとなっているか。**

**【観点に係る状況】**

学長を機構長とするリーディングプログラム機構を設置し、その下で広島大学大学院放射線災害復興を推進するフェニックスリーダー育成プログラム会議（以下「プログラム会議」という。）を中心に、広島大学大学院放射線災害復興を推進するフェニックスリーダー育成プログラム運営会議（以下「プログラム運営会議」という。）、広島大学大学院放射線災害復興を推進するフェニックスリーダー育成プログラム教育委員会（以下「教育委員会」という。）、広島大学大学院放射線災害復興を推進するフェニックスリーダー育成プログラム評価委員会（以下「評価委員会」という。）、広島大学大学院放射線災害復興を推進するフェニックスリーダー育成プログラム入試委員会（以下「入試委員会」という。）等、各種委員会及び包括支援を行う事務組織としての教育・国際室コラボレーションオフィスによる本プログラムの運営体制を構築してきた。

また、国内外の様々な機関との連携協力体制を押し進め、それらを統合的に取り扱う「産学官連携コンソーシアム」の設立に向けて準備中である。

**【分析結果とその根拠理由】**

本プログラムの企画・運営・連携体制は、広島大学とそれに捉われない国内外の多様な機関との協力によって構築されつつあり、横断的・俯瞰的な視点を要するフェニックスリーダー育成という本プログラムの目的に適合していると言えるが、「産学官連携コンソーシアム支援機構」等、まだ準備段階のものも多い。これらの課題を遂行し、体制の更なる拡充・強化に向けて現在邁進中である。

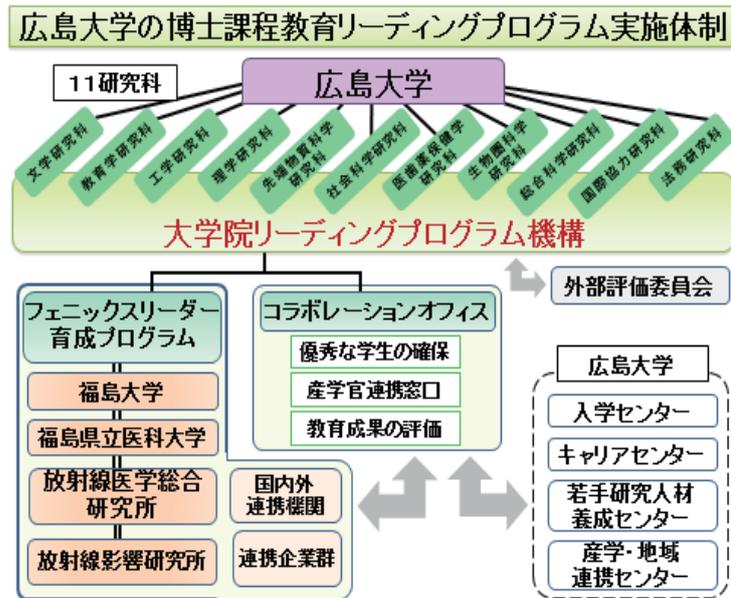
★資料 2-②-A 広島大学大学院リーディングプログラム機構運営会議で規定している運営組織等  
○フェニックスリーダー育成プログラム会議

★資料 2-②-B 放射線災害復興を推進するフェニックスリーダー育成プログラム運営内規で規定している運営組織等

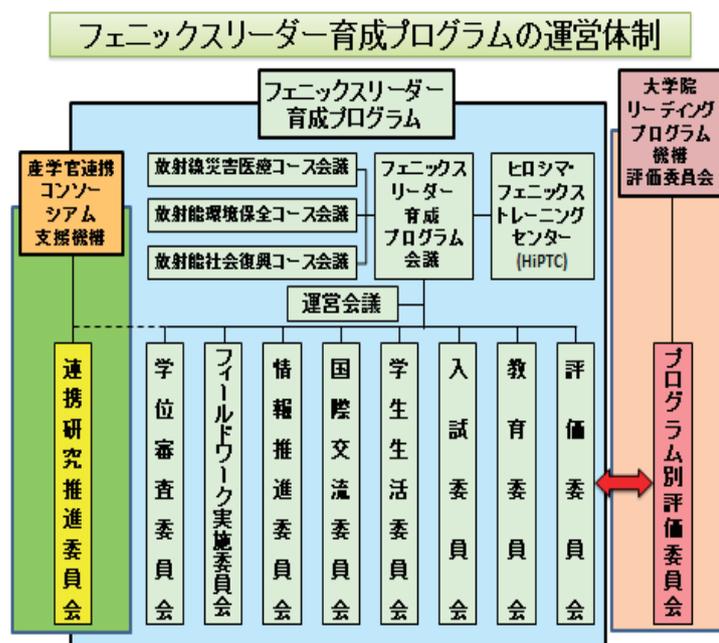
- フェニックスリーダー育成プログラム運営会議
- フェニックスリーダー育成プログラム放射線災害医療コース会議
- フェニックスリーダー育成プログラム放射能環境保全コース会議
- フェニックスリーダー育成プログラム放射能社会復興コース会議
- フェニックスリーダー育成プログラム指導担当者会議
- フェニックスリーダー育成プログラム教員連絡会議
- フェニックスリーダー育成プログラム評価委員会
- フェニックスリーダー育成プログラム教育委員会

- フェニックスリーダー育成プログラム入試委員会
- フェニックスリーダー育成プログラム学生生活委員会
- フェニックスリーダー育成プログラム国際交流委員会
- フェニックスリーダー育成プログラム情報推進委員会
- フェニックスリーダー育成プログラムフィールドワーク実施委員会
- フェニックスリーダー育成プログラムヒロシマ・フェニックストレーニングセンター

★資料 2-②-C 博士課程教育リーディングプログラム (平成 23 年度採択) 現地視察時 (H24. 5. 24) 説明資料 (抜粋)



★資料 2-②-D 博士課程教育リーディングプログラム (平成 23 年度採択) 現地視察時 (H24. 5. 24) 説明資料 (抜粋)



## 基準 3 担当者及び教育支援者

**観点 3-① プログラムにおける教員組織編成の方針が確立され、教育研究に係る責任の所在が明確になっているか。**

### 【観点到係る状況】

岡本哲治教授をプログラム責任者、神谷研二教授をプログラムコーディネーターとし、それぞれ松浦伸也教授を放射線災害医療コースリーダー、静間清教授を放射能環境保全コースリーダー、坂田桐子教授を放射能社会復興コースリーダーとする指導体制を確立した。

コースリーダーは、各コース内で検討すべき事項について責任を有するとともに、プログラム運営会議等においてプログラム全体に関わる事項の審議決定に参加する。

なお、各授業科目については、基本的に授業担当教員に責任が属するが、オムニバス形式の授業においては、授業世話役教員を指名し、組織横断型の指導体制を機能させている。

### 【分析結果とその根拠理由】

本プログラムの目的であるフェニックスリーダー育成のために、プログラム責任者を頂点として各コースリーダー、プログラム担当者、授業担当教員、授業世話役教員からなるカリキュラムの責任担保体制を確立している。

その上でプログラム運営会議等を審議の場とする教員組織が編成されており、運営内規等、各種内規等の制定によって、プログラム内での問題に対する責任の所在も明確化されつつあると言える。

★資料 3-① 放射線災害復興を推進するフェニックスリーダー育成プログラム運営内規で規定している運営体制等

- フェニックスリーダー育成プログラム運営内規
- フェニックスリーダー育成プログラム担当者の追加及び交替等に関する申合せ
- フェニックスリーダー育成プログラム特任教員の選考に関する申合せ
- フェニックスリーダー育成プログラム非常勤講師による授業実施等に関する申合せ
- フェニックスリーダー育成プログラム客員教授等の称号授与に関する申合せ
- フェニックスリーダー育成プログラムティーチング・アシスタント取扱要項
- フェニックスリーダー育成プログラムリサーチ・アシスタント取扱要項
- フェニックスリーダー育成プログラム招聘教授等の称号授与に関する申合せ(H24. 8. 20 廃止)

**観点 3-② プログラムにおいて学生の指導を担当する教員は、「放射線災害の複合的な被害からの復興を横断的かつ統合的にマネジメントする「フェニックスリーダー」を育成する」というプログラムの目的に対して適切か。**

### 【観点に係る状況】

プログラム担当者は、①総合科学研究科、②文学研究科、③教育学研究科、④社会科学研究科、⑤理学研究科、⑥医歯薬保健学研究科、⑦工学研究科、⑧生物圏科学研究科等、幅広い分野に所属しており、また福島大学や福島県立医科大学、(財)放射線影響研究所、(独)放射線医学総合研究所等、学外からのプログラム担当者も多数参加し、分野横断的な指導を可能にしている。

なお、平成 25 年 1 月からは、長崎大学医歯薬学総合研究科及び東北大学医学系研究科からもプログラム担当者が本プログラムに参画予定で、オールジャパンで「フェニックスリーダー」を育成することが可能となる。

### 【分析結果とその根拠理由】

プログラム担当者は、国内外、文理の分野の壁を超えて広い範囲から結集しており、また個別の授業科目担当の非常勤講師等もプログラム会議での審議を経て決定されている。

さらに、複数指導体制の導入によって、バランスの取れた指導を行えるよう配慮しており、フェニックスリーダーの育成という本プログラムの目的に適合していると言える。

#### ★資料 3-② 放射線災害復興を推進するフェニックスリーダー育成プログラム

##### プログラム担当者一覧

H24.12.1 現在

No.	職名	氏名	所属	役割分担
1	理事 副学長	岡本 哲治	社会連携・広報・情報担当	プログラム責任者 放射線災害医療コース担当
2	所長	神谷 研二	原爆放射線医科学研究所長	コーディネーター 放射線災害医療コース担当
3	教授	松浦 伸也	原爆放射線医科学研究所	放射線災害医療コース担当 (コースリーダー)
4	教授	静間 清	工学研究院	放射能環境保全コース担当 (コースリーダー)
5	教授	坂田 桐子	総合科学研究科	放射能社会復興コース担当 (コースリーダー)
6	教授	細井 義夫	原爆放射線医科学研究所	放射線災害医療コース担当
7	教授	越智 光夫	医歯薬保健学研究院	放射線災害医療コース担当
8	教授	稲葉 俊哉	原爆放射線医科学研究所	放射線災害医療コース担当
9	教授	瀧原 義宏	原爆放射線医科学研究所	放射線災害医療コース担当
10	教授	本田 浩章	原爆放射線医科学研究所	放射線災害医療コース担当
11	教授	東 幸仁	原爆放射線医科学研究所	放射線災害医療コース担当
12	教授	永田 靖	医歯薬保健学研究院	放射線災害医療コース担当

No.	職名	氏名	所属	役割分担
13	教授	栗井 和夫	医歯薬保健学研究院	放射線災害医療コース担当
14	教授	谷川 攻一	医歯薬保健学研究院	放射線災害医療コース担当
15	プログラム リーダー	島田 義也	(独)放射線医学総合研究所	放射線災害医療コース担当
16	教授	安村 誠司	福島県立医科大学	放射線災害医療コース担当
17	教授	菅井 基行	医歯薬保健学研究院	放射線災害医療コース担当
18	教授	浦邊 幸夫	医歯薬保健学研究院	放射能社会復興コース担当
19	教授	小林 正夫	医歯薬保健学研究院	放射線災害医療コース担当
20	教授	安井 弥	医歯薬保健学研究院	放射線災害医療コース担当
21	教授	田代 聡	原爆放射線医学研究所	放射線災害医療コース担当
22	教授	田中 純子	医歯薬保健学研究院	放射線災害医療コース担当
23	教授	茶山 一彰	医歯薬保健学研究院	放射線災害医療コース担当
24	特任教授	利島 保	医歯薬保健学研究院	放射線災害医療コース担当
25	疫学部長	小笹晃太郎	(財)放射線影響研究所	放射線災害医療コース担当
26	教授	坂井 晃	福島県立医科大学	放射線災害医療コース担当
27	教授	大津留 晶	福島県立医科大学	放射線災害医療コース担当
28	教授	中島 覚	自然科学研究支援開発センター	放射能環境保全コース担当
29	教授	深澤 泰司	理学研究科	放射能環境保全コース担当
30	教授	澤 俊行	工学研究院	放射能環境保全コース担当
31	特任講師	田中 万也	サステナブル・ディベロップメント 実践研究センター	放射能環境保全コース担当
32	教授	奥田 敏統	総合科学研究科	放射能環境保全コース担当
33	准教授	長沼 毅	生物圏科学研究科	放射能環境保全コース担当
34	教授	渡邊 明	福島大学	放射能環境保全コース担当
35	教授	加藤 範久	生物圏科学研究科	放射能環境保全コース担当
36	准教授	遠藤 暁	工学研究院	放射能環境保全コース担当
37	特任教授	観山 正見	学長室	放射能環境保全コース担当
38	教授	土田 孝	工学研究院	放射能環境保全コース担当
39	教授	山本 卓	理学研究科	放射能環境保全コース担当
40	教授	浦 光博	総合科学研究科	放射能社会復興コース担当
41	教授	岩永 誠	総合科学研究科	放射能社会復興コース担当
42	教授	戸田 常一	社会科学研究科	放射能社会復興コース担当
43	准教授	杉浦 義典	総合科学研究科	放射能社会復興コース担当
44	教授	山内 廣隆	文学研究科	放射能社会復興コース担当
45	教授	前杵 英明	教育学研究科	放射能社会復興コース担当
46	教授	林 武広	教育学研究科	放射能社会復興コース担当
47	准教授	原野 明子	福島大学	放射能社会復興コース担当
48	准教授	入戸野 宏	総合科学研究科	放射能社会復興コース担当

## 基準 4 学生の受け入れ状況

**観点 4-① 教育の目標に沿って求める学生像及び入学者選抜の基本方針などの入学者受入方針が明確に定められ公表、周知されているか。**

### 【観点に係る状況】

優秀な学生を受け入れるための学生募集要項を作成し、求める学生像、プログラムの趣旨及び選抜の基本方針等を明文化するとともに、入試委員会を設置し、受け入れ体制の整備を行った。

事前提出の小論文による一次選抜と、外部の試験委員も交えた 1 泊 2 日の面接やディスカッションによる二次選抜からなる入試体制を整え、2 月と 7 月に 2 回の入試を行った。

また、プログラムの周知徹底のためにホームページの開設・リニューアル、学会誌への広報、日本各地（福島、東京、大阪、福岡）、海外（広島大学ブラジルセンター及びブラジル国家原子力エネルギー委員会等）での説明会など広報活動にも力を入れている。

さらに、国公立大学に入試説明会等のポスター等を送付し、本プログラムが求めている学生像等の周知を図った。

### 【分析結果とその根拠理由】

学生募集要項やフェニックスリーダー育成プログラムのホームページ等において、求める学生像や入学者選抜の基本方針、学生受け入れ方針は掲載されており、誰でも閲覧可能な状態で公表されている。

また、各種媒体への学生募集広告、プログラム・入試説明会等を随時開催中であり、周知にも力を入れているが、さらなる広報策が求められる。

- ★資料 4-① フェニックスリーダー育成プログラム学生募集要項  
フェニックスリーダー育成プログラム自己点検報告書資料集  
「Ⅷ 学生募集に関する資料」（Ⅷ-1⑤～10⑤参照）

**観点 4-② 入学者受入方針に沿って適切な学生の受入方法が採用されており、実質的に機能しているか。**

**【観点到に係る状況】**

学生募集要項に記載されているような学力、コミュニケーション能力、マネジメント力等、筆記試験では計りきれない学生の資質を見抜くため、1泊2日の合宿形式で、日本語及び英語による面接やグループディスカッション等の二次選抜試験を行った。結果として国内外を問わず10名程度の募集に対して、平成24年度2月の第一次入学試験では5名、7月の第二次入学試験では3名を合格とし、学生として受け入れることを決定した。

選抜された学生は、広島大学の学生や社会人、外国籍の学生2名を含む多様性のある構成となっている。

**【分析結果とその根拠理由】**

学生募集要項に記載されている幅広い学力、コミュニケーション能力や高い語学力等、フェニックスリーダーにふさわしい資質を持つ学生を受け入れるため、合宿形式・対話中心の二段階選抜試験を採用している。その運用によって今年度は、10名程度の受入定員に対して、2回の入学試験で社会人及び外国籍の学生を含む8名を受け入れており、受け入れ体制が実質的に機能していることを示していると言える。

今後とも受験生の増加を目指して周知徹底し、高い資質を持つ学生を継続的に多数確保することが課題である。

★資料 4-②-A 放射線災害復興を推進するフェニックスリーダー育成プログラム開講式(H24.10.1)



★資料 4-②-B 放射線災害復興を推進するフェニックスリーダー育成プログラム  
平成 24 年度 10 月入学生一覧

NO	性別	国籍	コース	所属研究科・専攻	主任指導教員
1	M	日本	放射線災害医療コース	医歯薬保健学研究科 医歯薬学専攻	岡本 哲治
2	F	モンゴル	放射線災害医療コース	医歯薬保健学研究科 医歯薬学専攻	永田 靖
3	F	日本	放射能環境保全コース	総合科学研究科 総合科学専攻	奥田 敏統
4	F	日本	放射能環境保全コース	総合科学研究科 総合科学専攻	奥田 敏統
5	M	インドネシア	放射能環境保全コース	総合科学研究科 総合科学専攻	奥田 敏統
6	M	日本	放射能環境保全コース	理学研究科 化学専攻	中島 覚
7	F	日本	放射能社会復興コース	総合科学研究科 総合科学専攻	浦 光博
8	M	日本	放射能社会復興コース	医歯薬保健学研究科 保健学専攻	浦邊 幸夫

**観点 4-③ 入学者受入方針に沿った学生の受け入れが実際に行われているかどうかを検証するための取り組みが行われており、その結果を入学者選抜の改善に役立てているか。**

### 【観点に係る状況】

プログラム会議及びプログラム運営会議等にて、入学試験の合否判定をプログラム担当者の審議の下で行っており、試験委員の受験者一人一人に対する評定を基に本プログラムにふさわしい資質を持つ学生か否かを入念に審査している。その上で、入学試験及び受け入れ体制に関係する問題点、改善点等は教育委員会及び入試委員会等にて検討され、次回の改善案へと盛り込まれている。

### 【分析結果とその根拠理由】

入学試験の結果及び受け入れ学生の決定は、プログラム会議及びプログラム運営会議等で入念に審議され、決定されている。

そこで浮かび上がった入学試験の問題点等は、別途教育委員会等で検討され、広報策の強化等、入学者選抜の改善が行われてきている。

なお、国内での広報活動はもとより、海外で本プログラムのPRが不足しているという指摘への対応を早急に行う必要がある。

#### ★資料 4-③-A 放射線災害復興を推進するフェニックスリーダー育成プログラム募集案内(国内用)



文部科学省「博士課程教育リーディングプログラム」平成23年度採択 複合領域（顕微鏡テーマ）プログラム

広島大学大学院  
放射線災害復興を推進する  
フェニックスリーダー育成プログラム  
平成25年(2013年)10月入学者  
募集案内

広島大学大学院では、「放射線災害復興を推進するフェニックスリーダー育成プログラム」(文部科学省「博士課程教育リーディングプログラム」平成23年度採択)について、平成25(2013)年10月入学者の募集を行います。

本プログラムでは、医学、環境学、工学、理学、社会学、教育学、心理学などの基礎的知識を有し、放射線災害からの復興を構造的かつ統合的にマネージし、国際的に活躍できる分野横断・統合的グローバルリーダーの育成を目指しており、次のような学生を求めています。

- (1) 横断的知識と技術を身につけ、社会の発展に貢献したい人
- (2) 人の痛みがわかり、災害復興に貢献したいと強く願う人
- (3) リーダーとなって、地域・国際社会で活躍したい人
- (4) 意欲、行動力、責任心、人間性に優れた人

本プログラムでは、「放射線災害復興コース」、「放射線環境安全コース」、「放射線社会復興コース」の3つのコースによる分野横断的専門教育を提供します。

企業から実務で熟練ある大学生や大学院生を、社会人の方々、出発学歴を問わず広く得ます。

プログラムおよび入試情報の詳細については、「放射線災害復興を推進するフェニックスリーダー育成プログラム」のホームページをご参照ください。

**■ 就学上の経済支援**  
学生奨学金の免除、奨励金月額10～20万円  
(奨励金を支給されない場合、入学科・授業料は不徴収)

**■ 入学試験説明会**  
広島大学東京オフィス、大阪オフィス、福岡オフィス、東広島キャンパス、鹿野キャンパス等で実施予定です。詳細はホームページでご確認ください。

**■ 選抜試験日程**  
【加藤貞治学術賞募集要項（奨励金のめ）】平成25年1月7日(月) 17:00(必着)  
【試験開始】平成25年1月22日(火) 9:00～1月28日(月) 17:00(必着)  
【第二次選抜】平成25年2月16日(土)・2月17日(日)  
場所：広島市文化交流会館

「放射線災害復興を推進するフェニックスリーダー育成プログラム」  
URL <http://www.hiroshima-u.ac.jp/ip/program/ra/>

【問い合わせ先】広島大学教育・組織運営課 放射線災害復興推進室  
〒730-8521 広島県広島市東区三輪3-1-1 広島大学学術部3階 303号室 TEL: 082-241-4112 E-mail: leading-program@office.hiroshima-u.ac.jp

★資料 4-③-B 放射線災害復興を推進するフェニックスリーダー育成プログラム募集案内(国外用)

Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology – NEXT “PhD Leading Programs” (Interdisciplinary, cross-cutting theme) accepted from FY2011

## Phoenix Leader Education Program (Hiroshima Initiative) for Renaissance from Radiation Disaster

### Application Guide for Admission October 2013 Enrollment

Hiroshima University Graduate School is accepting applications for October 2013 enrollment in the Phoenix Leader Education Program (Hiroshima Initiative) for Renaissance from Radiation Disaster (Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology – NEXT “PhD Leading Programs” accepted from FY2011).

This program aims to nurture excellent graduate leaders with a basic knowledge of medicine, environmental studies, engineering, science, sociology, education and psychology capable of laterally and comprehensively managing radiation disaster recovery. **The program seeks students who:**

1. desire to contribute to the development of society with interdisciplinary knowledge and skills,
2. understand the suffering of others and have a strong desire to contribute to radiation disaster recovery,
3. desire to become leaders that play an active role in regional and global society, and,
4. have exceptional enthusiasm, determination, responsibility, and people skills.

This program offers specialized, integrated studies through 3 courses: “Radiation Disaster Medicine,” “Radioactivity Environmental Protection,” and “Radioactivity Social Recovery.” University students, graduate students, and adults with academic excellence and ability are **welcomed** from around the world, regardless of their educational specialization. For more information regarding the program and admissions, please refer to the website for the “Phoenix Leader Education Program (Hiroshima Initiative) for Renaissance from Radiation Disaster.”

**Financial Support for Students**  
Exemption from student housing fee, monthly stipend of 180,000 to 200,000 yen (students not receiving the stipend are exempt from the admission fee/tuition)

**Explanatory Meeting for the Entrance Exam**  
Meetings will be held at the following Hiroshima University sites: Tokyo Office, Osaka Office, Fukuoka Office, Higashi-Hiroshima Campus, and Kasumi Campus. Please refer to the website for details.

**Selection Examination Schedule**  
**Preliminary Document Review of Applicant Eligibility (relevant individuals only):** Must be received by 5:00 p.m. on January 7, 2013 (Mon.).  
**Application Period:** Begins January 22, 2013 (Tue.) and ends at 5:00 p.m. on January 26, 2013 (Mon.).  
**Second Selection:** February 16, 2013 (Sat.), February 17, 2013 (Sun.).  
**Place:** Hiroshima City Cultural Exchange Hall

Phoenix Leader Education Program website  
<http://www.hiroshima-u.ac.jp/en/lp/po/ra/>

**Inquiries** Collaboration Office of the Education and International Office, Hiroshima University  
1-7-1 Kagamiyama, Higashi-Hiroshima, 739-8521, JAPAN  
Tel.: (+81)82-429-6152; E-mail: [leading-program@office.hiroshima-u.ac.jp](mailto:leading-program@office.hiroshima-u.ac.jp)

## 基準 5 教育内容及び方法

**観点 5-① 教育の目的や授与される学位に照らして、授業科目が適切に配置され、教育課程が体系的に編成されており、授業科目の内容が、全体として教育課程の編成の趣旨に沿ったものとなっているか。**

### 【観点到に係る状況】

本プログラムにおいて育成する人材像に基づき、適正に授業科目を配置した。

さらに目標を明らかにしたカリキュラムマップを作成することにより教育の体系的性、順次性を明らかにした上で、現在、スタートアップ共通科目を実施している。

また、広島大学大学院放射線災害復興を推進するフェニックスリーダー育成プログラムヒロシマ・フェニックストレーニングセンター（HiPTC）（以下「トレーニングセンター（HiPTC）」という。）の設立や、フィールドワーク実施委員会の設置等を行い、各授業科目で習得する知識に基づく総合的・実践的な学修の場を準備している。

### 【分析結果とその根拠理由】

プログラムの最終目的であるフェニックスリーダーとしての学位授与に向けて、スタートアップ共通科目、アドバンスド共通科目、コースワーク、フィールドワーク、インターンシップ、英語科目等、幅広い知識や実践的技術、発信力を習得できるよう分野横断的な授業科目をコースごとに体系化しており、本プログラムの教育の趣旨に適合していると言える。

★資料 5-①-A 放射線災害復興を推進するフェニックスリーダー育成プログラム履修細則（抜粋）

（教育課程）

第 5 条 フェニックスリーダー育成プログラムの教育課程は別表第 1 から別表第 3 までのとおりとする。

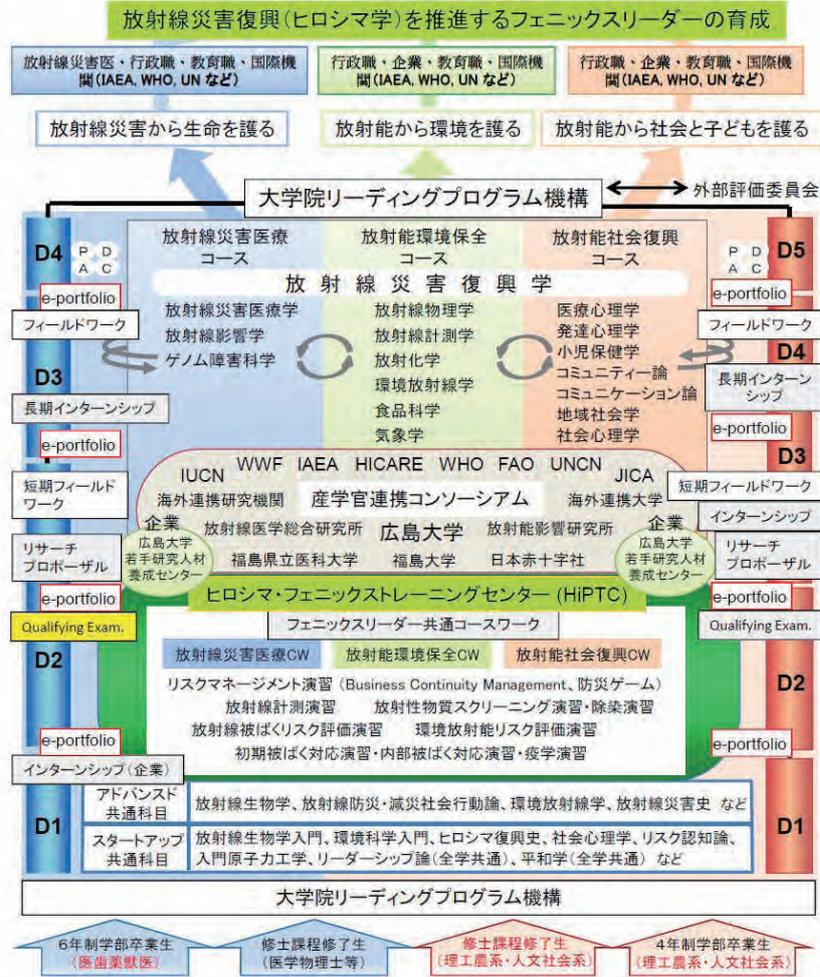
（授業科目等）

第 6 条 フェニックスリーダー育成プログラムにおいて履修する授業科目及びその単位数は、別表第 1 から別表第 3 までのとおりとする。

★資料 5-①-B フェニックスリーダー育成プログラムカリキュラム表  
フェニックスリーダー育成プログラム自己点検報告書資料集  
「I 履修に関する資料」（I-7 頁～9 頁参照）

★資料 5-①-C フェニックスリーダー育成プログラムにおけるカリキュラムマップの取扱い  
フェニックスリーダー育成プログラム自己点検報告書資料集  
「I 履修に関する資料」（I-16 頁～20 頁参照）

★資料 5-①-D 平成 23 年度博士課程教育リーディングプログラム計画調書（抜粋）



**観点 5-② 分野横断型の指導により多様な背景を持つ学生を学位授与へと導くプロセスの管理及び透明化の手段を備えているか。**

**【観点に係る状況】**

フェニックスリーダー育成プログラムの教育委員会及び情報推進委員会を中心に、遠隔地での講義受講を可能にする e ラーニングシステムと、学生や指導教員、その他のプログラム担当者等の中で学修状況の確認を行うための e ラーニングポートフォリオシステムを整備し、学生による成果の蓄積と指導教員による助言・指導に活用している。

また、4年制コースでは第3セメスター、5年制コースでは第4セメスター終了時に実施する博士論文研究基礎力審査 (Qualifying Examination) について、指導担当者会議及び教育委員会を中心に内容を調整している。

**【分析結果とその根拠理由】**

e ラーニングシステムによる遠隔地での講義受講、レポート添削等の個別指導により、多様な背景を持つ学生の学習課題に対する適切な指導が可能である。

学生の学修状況の把握、管理、公開については、e ラーニングポートフォリオシステム等で細部にわたって情報共有可能であり、学生の自己チェック、指導教員と学生との双方向的な指導が可能である。

また、修士号の授与に向けては全コースにおいて QE を予定しており、QE 合格後の博士論文を作成するための学力や資質の見極めを行うことで、学位授与までのプロセスの管理とその透明化に努めている。

**★資料 5-②-A 放射線災害復興を推進するフェニックスリーダー育成プログラム履修細則 (抜粋)**

(博士論文研究基礎力審査)

第 10 条 学生は、次条に定める基準を満たした場合は、次の各号に定める博士論文研究基礎力審査 (Qualifying Examination) (以下「博士論文研究基礎力審査」という。)を受けることができ、その審査に合格したときは、引き続きフェニックスリーダー育成プログラムの 3 年次の課程を履修することができる。

- (1) コースワーク 複数分野の専門知識に関する筆記試験
- (2) リサーチワーク 博士論文研究基礎力審査委員会による研究計画書に対する英語での口頭試問
- (3) e ラーニングポートフォリオ 博士論文研究基礎力審査委員会による学修の記録(単位修得状況とその理解度及び目標達成度)に基づくプログラムが目指す博士候補生としての資質能力審査

(博士論文研究基礎力審査を受けるための基準)

第 11 条 4 年制コースを履修する学生の博士論文研究基礎力審査を受けるための基準は、次のとおりとする。

- (1) 所属研究科の 2 年次前期終了時における所定の単位を修得していること。

- |   |
|---|
| <p>(2) 4 年制コースの 2 年次前期終了時に当該コースの単位を 22 単位以上修得していること。</p> <p>2 5 年制コースを履修する学生の博士論文研究基礎力審査を受けるための基準は、次のとおりとする。</p> <p>(1) 所属研究科の博士課程前期における所定の単位を修得し、博士課程前期を修了見込みであること。</p> <p>(2) 5 年制コースの 2 年次終了時に当該コースの単位を 30 単位以上修得見込みであること。</p> |
|---|

- ★資料 5-②-B フェニックスリーダー育成プログラム e ラーニングポートフォリオ運用指針  
フェニックスリーダー育成プログラム自己点検報告書資料集  
「I 履修に関する資料」(I-21 頁～22 頁参照)

**観点 5-③ 高度な研究及び実践に豊富に接する中で魅力ある教育を実践し得るように教育機能の充実が図られているか。**

**【観点に係る状況】**

1 年次後期から 2 年次に予定されている①初期被ばく・内部被ばく・疫学演習，②放射性物質スクリーニング・除染演習，③放射線災害リスク管理・防災演習，④放射線計測演習，⑤Business Continuity Management (BCM) からなるフェニックスリーダー共通コースワークを行うために，多様な機器や設備を備えたトレーニングセンター (HiPTC) を設立し，準備に当たっている。

また，フィールドワーク実施委員会を設置し，フィールドワークの実施に向けて準備を進めている。現状ではフィールドワークについての要項，ガイドライン，個人被ばく放射線量の管理，内部被ばく検査の取り扱い，事故・災害等報告連絡フロー等の要項等の策定を行い，また国内外の各種機関との連携体制の確立によって，セミパラチンスク，チェルノブイリ及び福島でのフィールドワークの実施に向けて準備を進めている。

さらに，5 年制コースでは 4 年次に，4 年制コースでは 3 年次に予定している長期インターンシップに向けて，IAEA (国際原子力機関)，WHO (世界保健機関)，IFRC (国際赤十字・赤新月社連盟) 等，海外の受け入れ予定機関との連携協力体制を確立し，受け入れ先の教員候補者の選定等を行っている。

**【分析結果とその根拠理由】**

トレーニングセンター (HiPTC) での演習や，Business Continuity Management (BCM) の演習準備，国内外でのフィールドワーク，インターンシップ等に向けて準備が着々と進んでおり，フェニックスリーダーとしてふさわしい分野を問わない高度かつ実践的な教育研究カリキュラムの実現に向けて進展中である。

★資料 5-③-A フェニックスリーダー育成プログラムヒロシマ・フェニックストレーニングセンター細則  
フェニックスリーダー育成プログラム自己点検報告書資料集  
「Ⅲ 運用組織に関する資料」(Ⅲ-7 頁～8 頁参照)

★資料 5-③-B フェニックスリーダー育成プログラムフィールドワーク要項  
フェニックスリーダー育成プログラム自己点検報告書資料集  
「V フィールドワークに関する資料」(V-1 頁～8 頁参照)

★資料 5-③-C フェニックスリーダー育成プログラムフィールドワークガイドライン  
フェニックスリーダー育成プログラム自己点検報告書資料集  
「V フィールドワークに関する資料」(V-9 頁～10 頁参照)

**観点 5-④ 国際的な課題解決に向けて活躍する人材を育成するために、国際的なコミュニケーション能力や交渉力を高めるためのさらなる工夫と努力がなされているか。**

### 【観点に係る状況】

本プログラムにおいては、4月から実際にプログラムの履修が始まる10月までのギャップターム期間に、入学予定の学生が海外語学研修を受けることができるよう「広島大学大学院放射線災害復興を推進するフェニックスリーダー育成プログラム海外語学研修実施要項」を制定するとともに、入学予定者は、ギャップターム期間中は、原則として広島大学の身分を有して活動を行うことになる。

なお、語学研修先として、現在米国の Center for Intensive English Studies, 英国の INTO UNIVERSITY OF EXETER, EXETER ACADEMY と連携体制を確立し、本プログラムに10月に入学予定の学生のうち、3名がフロリダ大学の海外語学研修に参加した。その海外語学研修報告会を10月に行った。

加えて通常のカリキュラムにおいても、アドバンスト・イングリッシュ I, 国際開発時事英語, English Communication, English Rhetoric 及び English Presentation 等、英語力強化のための授業科目を配置している。

また、通常の語学の授業とは別に、国際的なコミュニケーション能力を高めるために、平成24年12月から毎週1回の英語研修を取り入れた。

さらに、平成25年2月に開催する第2回国際シンポジウムにおいては、学生が企画や運営に参加することによって、国際的なコミュニケーション能力や交渉力の実践及び省察が可能になる。

### 【分析結果とその根拠理由】

多様な英語科目と実践的な海外語学研修、加えて国際シンポジウムにおける英語での発表機会等、日常英語のみならず学術分野での論文読解、作成、発表にも耐えうるような英語の知識や、英語でのコミュニケーション能力の養成には特に力を入れて推進している。

★資料5-④-A フェニックスリーダー育成プログラム海外語学研修実施要項  
フェニックスリーダー育成プログラム自己点検報告書資料集  
「VI 語学研修に関する資料」(VI-1頁～3頁参照)

★資料5-④-B フェニックスリーダー育成プログラム大学院生等に係る語学研修実施要項  
フェニックスリーダー育成プログラム自己点検報告書資料集  
「VI 語学研修に関する資料」(VI-4頁参照)

## ★資料 5-④-C 広島大学研究生規則（抜粋）

（趣旨）

第 1 条 この規則は、広島大学通則(平成 16 年 4 月 1 日規則第 2 号。以下「通則」という。)第 52 条第 2 項及び広島大学大学院規則(平成 20 年 1 月 15 日規則第 2 号。以下「大学院規則」という。)第 53 条第 2 項の規定に基づき、広島大学(以下「本学」という。)の学部、大学院、附置研究所、全国共同利用施設又は学内共同教育研究施設(以下「学部等」という。)において 1 学期又は 1 学年間特定の事項を研究する研究生に関し必要な事項を定めるものとする。

（略）

附 則

- 1 この規則は、平成 16 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 この規則の施行の際現に旧広島大学研究生規程(昭和 51 年広島大学規程第 1 号)により引き続き研究生として研究を許可されている者は、この規則により引き続き研究生として研究を許可された者とみなす。
- 3 本学大学院博士課程リーダー育成プログラムの履修を認められた者が、履修を開始するまでの間研究生として学部等に入学を希望し、当該者の受入れを許可する場合は、第 3 条第 1 項、第 7 条及び第 8 条第 1 項の規定にかかわらず、検定料、入学金及び研究料は、徴収しないものとする。

（略）

附 則(平成 24 年 5 月 15 日規則第 103 号)

この規則は、平成 24 年 5 月 15 日から施行し、この規則による改正後の広島大学研究生規則附則第 3 項の規定は、平成 24 年 4 月 1 日から適用する。

## ★資料 5-④-D 放射線災害復興を推進するフェニックスリーダー育成プログラム海外語学研修報告会 (H24. 10. 22)



## 基準 6 教育の成果

**観点** 学生が身につける学力、資質・能力や養成しようとする人材像等に照らして、その達成状況を検証・評価するための適切な取り組みが行われているか。

### 【観点到に係る状況】

各コースのカリキュラム及びシラバスの策定とともに、eラーニングポートフォリオにおいて学生が、各授業科目における達成度を自己評価するための基準となるカリキュラムマップを作成中である。

また、eラーニングポートフォリオにおいて、学生の学修状況や作成したレポート、研究経過報告等を自由に記録し、指導教員等が閲覧して指導を行っている。

### 【分析結果とその根拠理由】

学生が現時点でどの程度の知識、技術の習得状況にあるか、すなわち学生の学修達成状況は、eラーニングポートフォリオを介して指導教員によるチェックと、学生自身による自己点検、そして両者の双方向的検討によって把握されている。

また、単なる単位の履修状況や課題の提出状況だけでなく、当該カリキュラムにおいてどの程度の知識、技術を習得したのかを図る目安として、カリキュラムマップを現在作成中である。

これらのことから、目的となるフェニックスリーダーを育成するための学生の達成状況が明らかになっている。

★資料 6-A フェニックスリーダー育成プログラムにおけるカリキュラムマップの取扱い  
フェニックスリーダー育成プログラム自己点検報告書資料集  
「I 履修に関する資料」(I-16 頁～20 頁参照)

★資料 6-B フェニックスリーダー育成プログラム eラーニングポートフォリオ運用指針  
フェニックスリーダー育成プログラム自己点検報告書資料集  
「I 履修に関する資料」(I-21 頁～22 頁参照)

## 基準 7 学生支援等

### 観点 7-① 優秀な学生同士が切磋琢磨し刺激しあう環境が構築できているか。

#### 【観点に係る状況】

平成 24 年度 2 月に第 1 回国際シンポジウムを広島国際会議場で開催した。本シンポジウムでは、大学院リーディングプログラム専門家会議、低線量被ばくとリスクコミュニケーションについてのセッション、原子力災害への応用等を視野に入れた基礎的研究発表等が行われた。

続いて、平成 24 年 5 月にフェニックスリーダー育成プログラム専門家会議を広島リーガロイヤルホテルで開催し、平成 24 年 10 月に入学予定の学生 4 名も参画し、英語によるディスカッションを行った。

また、平成 25 年 2 月に開催する第 2 回国際シンポジウムにおいては、学生が参加するパネルディスカッション、学生主体のポスターセッションも行われ、学生が主体の分野横断的な研究発表の場として継続して開催する予定である。

#### 【分析結果とその根拠理由】

第 1 回国際シンポジウムでは、プログラムスタート以前のため学生はまだ参加しておらず、第 2 回国際シンポジウムでのポスターセッションからの参加となっている。

まだ講演等はプログラム内外の教員や専門家によるものが多いが、今後徐々に国際シンポジウムは学生の主催する学生のための研究発表の場として位置付けて開催する予定であり、学生の切磋琢磨を促す重要なステージとして機能するであろう。

★資料 7-①-A フェニックスリーダー育成プログラム専門家会議 (H24. 5. 16)



★資料 7-①-B フェニックスリーダー育成プログラム第 2 回国際シンポジウムポスター

**Suggestion for the Renaissance from Radiation Disaster**

文部科学省「博士課程教育リーディングプログラム」平成 23 年度採択事業

**放射線災害復興を推進する  
フェニックスリーダー育成プログラム  
第 2 回 国際シンポジウム**

**The 2nd  
International Symposium  
on  
Phoenix Leader Education Program  
(Hiroshima Initiative)  
for  
Renaissance from Radiation Disaster**

**February 10 (Sun) - 11 (Mon - National Holiday), 2013**  
at Hiroshima International Conference Center, Japan

**February, 10 (Sun) 12:30 ~ 18:30**

**Keynote Speakers**  
Dr. Shinsuke Shimojo Professor, California Institute of Technology  
Dr. Rethy K. Chhem Director, Division of Human Health, International Atomic Energy Agency (IAEA)

**Symposiasts**  
Dr. Jacques Lochard Chairman of Committee 4, International Commission on Radiological Protection (ICRP)  
Dr. Tokushi Shibata Senior Scientist, Chiyoda Technol Corporation  
Dr. Seichi Nohara Head of Ecosystem Function Research Section, National Institute for Environmental Studies  
Dr. Albert Lee Wiley Technical/Medical Director at Radiation Emergency Assistance Center/Training Site (REAC/TS)  
Dr. Tom K. Hei Professor, Columbia University Medical Center

**February, 11 (Mon) 09:00 ~ 12:30**

**Poster Session (Research Presentation)**

**Panel Discussion**  
"How can the science and technology contribute to the social construction for security and safety?"  
Panelists  
Dr. Shinsuke Shimojo, Dr. Rethy K. Chhem, Prof. Kenji Kamiya, Program students  
English & Japanese only

URL EN▶ <http://www.hiroshima-u.ac.jp/en/jp/> URL JPN▶ <http://www.hiroshima-u.ac.jp/jp/program/ra/>  
主催：広島大学大学院リーディングプログラム 組織：The Leading Graduate Educational Program Hiroshima University  
〒739-8526, Higashi-Hiroshima 739-8526, Japan Phone: +81-82-231-8101 E-mail: [leading.program@hiroshima-u.ac.jp](mailto:leading.program@hiroshima-u.ac.jp)

**観点 7-② 学業及び研究に専念できる、生活支援がなされているか。****【観点に係る状況】**

学生が学業及び研究に専念できる環境として、「広島大学大学院博士課程教育リーディングプログラム奨励金要項」を制定し、本プログラムの学生のうち、希望者には、研究計画書等の審査を通じて、月額 18 万から 20 万円の奨励金を支給している。

学生の宿舎については、学生生活委員会を設置し検討を行うとともに、「広島大学学生宿舎における博士課程リーダー育成プログラム履修生の取扱いについて」を制定し、東広島キャンパスでは学生宿舎を、広島市では民間のアパートを確保し、希望する学生に提供している。

また、入学料及び授業料に関しては、奨励金を受給しない者に限り不徴収としている。

加えて、学生生活委員会等において「広島大学大学院放射線災害復興を推進するフェニックスリーダー育成プログラムノートパソコン貸与要項」を制定し、学生に対しては、希望に応じて、在学期間内に限ってノートパソコンを貸与している。

**【分析結果とその根拠理由】**

学生がアルバイト等をせずとも学業及び研究に専念できるよう、本プログラムでは希望者には月額 20 万円程度の奨励金を毎月支給している。

社会人入学者等で奨励金を受給していない学生からは、入学料及び授業料は徴収せず、金銭的負担を軽減する策を実施している。

また、学生宿舎の提供やノートパソコンの貸与等、学生の生活を支援する多様な対策を講じている。

- ★資料 7-②-A 広島大学博士課程教育リーディングプログラム奨励金要項  
フェニックスリーダー育成プログラム自己点検報告書資料集  
「II 支援に関する資料」(II-1 ①～7 ①参照)
  
- ★資料 7-②-B 広島大学学生宿舎における博士課程リーダー育成プログラム履修生の取扱いについて  
フェニックスリーダー育成プログラム自己点検報告書資料集  
「II 支援に関する資料」(II-8 ①～9 ①参照)
  
- ★資料 7-②-C 授業料・入学料、学生宿舎料一覧  
フェニックスリーダー育成プログラム自己点検報告書資料集  
「II 支援に関する資料」(II-10 ①参照)
  
- ★資料 7-②-D フェニックスリーダー育成プログラムノートパソコン貸与要項  
フェニックスリーダー育成プログラム自己点検報告書資料集  
「II 支援に関する資料」(II-11 ①～14 ①参照)

**観点 7-③ 学生が主体的に独創的な研究を計画・実践できる工夫がなされているか。****【観点に係る状況】**

本プログラムにおいては、学生等が国内外へのフィールドワーク、インターンシップ等で出張する場合に、宿泊費及び日当相当を支給するために、「広島大学大学院放射線災害復興を推進するフェニックスリーダー育成プログラム大学院生等に係る宿泊費及び日当の支給割合について」を制定した。

また、国内外の学会での発表等を支援するため「広島大学大学院放射線災害復興を推進するフェニックスリーダー育成プログラム大学院生に係る海外学会参加等支援要項」及び「広島大学大学院放射線災害復興を推進するフェニックスリーダー育成プログラム大学院生に係る国内学会参加等支援要項」を制定した。

**【分析結果とその根拠理由】**

本プログラムでは、学内での講義や演習等のカリキュラム外でも、学生が独自に主体的な研究を計画し、実行に移せるよう、国内外の学会活動のための旅費、日当相当の支給ができるように要項等を制定している。

なお、今後は学生が研究を開始するに当たって必要となる研究スタートアップ資金や競争的研究ファンドが支給できるよう制度を構築していく必要がある。

- ★資料 7-③-A フェニックスリーダー育成プログラム大学院生等に係る宿泊費及び日当の支給割合について  
フェニックスリーダー育成プログラム自己点検報告書資料集  
「IV 事務に関する資料」(IV-14 頁参照)
- ★資料 7-③-B フェニックスリーダー育成プログラム大学院生に係る海外学会参加等支援要項  
フェニックスリーダー育成プログラム自己点検報告書資料集  
「II 支援に関する資料」(II-15 頁～17 頁参照)
- ★資料 7-③-C フェニックスリーダー育成プログラム大学院生に係る国内学会参加等支援要項  
フェニックスリーダー育成プログラム自己点検報告書資料集  
「II 支援に関する資料」(II-18 頁～20 頁参照)

## 基準 8 施設・設備

**観点** プログラムにおける教育研究組織の運営及び教育課程の実現にふさわしい施設・設備が整備されているか。

### 【観点に係る状況】

トレーニングセンター (HiPTC) を設立し、環境放射能や食品中などの放射能測定演習、除染演習に不可欠な機器である核種別測定用 Ge 半導体検出器、イメージングプレート (IP) スキャナー、リスクマネジメント演習のための防災ゲーム関連物品を平成 23 年度に購入した。

平成 24 年度には、核種別測定用 Ge 半導体検出器を追加購入するとともに、その調整に必須である放射能標準ガンマ体積線源、放射線被ばくによるゲノム障害のマーカーとなる染色体を用いた生物学的線量評価を定量化 (数値化) するために不可欠な放射線障害染色体異常解析システムを購入予定である。

また、本プログラムでは、福島でのフィールドワーク等を実施するため、福島大学と連携し、福島大学南相馬地域支援サテライトを利用できる体制を整えている。そのため「広島大学大学院放射線災害復興を推進するフェニックスリーダー育成プログラムの福島大学南相馬地域支援サテライト利用要項」等が制定されている。

### 【分析結果とその根拠理由】

放射線の測定演習や除染演習等に不可欠な精密機器や設備等は、来年度のコースワーク開始に向けて購入する等、準備中であり、そうした機器、設備を一括して管理し、学生の演習を円滑に進めるためのトレーニングセンター (HiPTC) を設立している。

また、福島大学南相馬地域支援サテライト利用のための連携を進めており、フェニックスリーダーの育成のためにふさわしい高度な演習環境と、被災地での実践的訓練を行える環境を整えている。

- ★資料 8-1 フェニックスリーダー育成プログラムヒロシマ・フェニックストレーニングセンター  
フェニックスリーダー育成プログラム自己点検報告書資料集  
「IX トレーニングセンターに関する資料」(IX-1 ④～4 ④参照)
  
- ★資料 8-2 フェニックスリーダー育成プログラムの福島大学南相馬地域支援サテライト利用要項  
フェニックスリーダー育成プログラム自己点検報告書資料集  
「V フィールドワークに関する資料」(V-1 7 ④～20 ④参照)

## 基準 9 教育の質の向上及び改善のためのシステム

**観点** プログラムにおける評価体制が、プログラムの実施状況を評価するために、適切なものとなっているか。

### 【観点到に係る状況】

評価機関として、本プログラムに評価委員会を設置し、平成 24 年 12 月に、第 1 回の自己点検評価報告書を作成した。今後、定期的に自己点検を実施する。

また、国内外の産学官の専門家を外部評価委員として招聘し評価体制を構築する。そのため、平成 25 年 2 月に自己点検評価報告書に基づき、外部評価委員より評価及び改善に向けた助言を得る予定である。

### 【分析結果とその根拠理由】

本プログラムにおいては、プログラム全体の実施状況を評価委員会が自己点検評価書としてまとめあげ、それを基に資料を編成するという形で、外部の評価委員に提供し、外部評価委員会を開催することで、自己評価と外部評価を行う体制を採っており、プログラム全体の実施状況、改善点、その他助言等を内外から幅広く吸い上げ、プログラムの改善に役立てる姿勢を整えている。

- ★資料 9-1 フェニックスリーダー育成プログラム評価委員会細則  
フェニックスリーダー育成プログラム自己点検報告書資料集  
「Ⅲ 運営組織に関する資料」（Ⅲ-37 頁参照）

- ★資料 9-2 フェニックスリーダー育成プログラム外部評価委員会委員一覧

氏名	所属・役職等
柴田 徳思	(株) 千代田テクノ大洗研究所研究主幹
長瀧 重信	公益財団法人放射線影響協会理事長
宮川 清	東京大学大学院医学系研究科教授
山下 隆	中国経済連合会会長
Dr. Albert Lee Wiley	オークリッジ放射線緊急時支援センター/訓練施設 (REAC/TS) 医療・技術理事
Dr. Jacques Lochard	国際放射線防護委員会 (ICRP) 第 4 委員会委員長
Dr. Rethy K. Chhem	国際原子力機関 (IAEA) 健康部長
Dr. Tom K. Hei	コロンビア大学教授

★資料 9－3 平成 24 年度大学改革推進等補助金（リーディング大学院構築事業費）交付申請書（抜粋）

3) 評価委員会（自己点検）および外部評価委員会による評価とそのプログラムへの反映  
国内外の産学官の専門家からなる外部評価委員会を組織し、委員会での評価項目等の具体的評価体制の構築とそれにもとづいた評価を受ける。また、学生も参加した評価委員会（自己点検）での評価にもとづき、PDCA サイクルを活用して更なるプログラムの改善・運用を図る。なお、外部評価委員は以下の通りである。  
(略)

## おわりに

本リーディングプログラムは、平成 23 年 12 月初旬の採択決定から、平成 24 年 10 月の授業開始で本格的稼働を見えています。平成 24 年度末には、外部評価委員による実施状況評価を受けることが決まっておりました。従って、この約 1 年 3 ヶ月間という短い期間の実施状況を、どのような基準や観点で評価し、外部評価委員の評価に耐える資料にするかについては、当初かなりの戸惑いがありました。

そのための、我が国に定着している大学教育認証評価の評価基準に従って実施状況の評価を行い、平成 24 年度自己評価報告書を作成することにしました。ただ、短期間の途中経過を評価するため、十分な評価資料が整わないという実情もあり、本プログラムの完成形の評価でないという点で、自己評価報告書としては未完成であることは否めません。

しかし、年度末までの実施状況を含め、かなりの短期間で自己評価報告書の完成を見たことについては、プログラムの実質的稼働に協力いただいた教員、研究員、事務職員の努力の結果であると思います。

評価委員会は、これらの方々の本プログラムに係る種々のご尽力に対し、厚く感謝申し上げます。

広島大学大学院放射線災害復興を推進する

フェニックスリーダー育成プログラム評価委員会一同

### 評価委員会委員

職名	氏名	所属	役割分担・コース名
理事 副学長	岡本 哲治	社会連携・広報・情報担当	プログラム責任者 放射線災害医療コース担当
所長	神谷 研二	原爆放射線医科学研究所長	コーディネーター 放射線災害医療コース担当
教授	小林 正夫	医歯薬保健学研究院	放射線災害医療コース担当
教授	澤 俊行	工学研究院	放射能環境保全コース担当
教授	岩永 誠	総合科学研究科	放射能社会復興コース担当
特任教授	観山 正見	学長室	放射能環境保全コース担当
特任教授	利島 保	医歯薬保健学研究院	放射線災害医療コース担当



**【お問い合わせ先Inquiries and Submission】**

**広島大学大学院リーディングプログラム機構**

**教育・国際室コラボレーションオフィス**

**The Organization of Leading Graduate Education Program, Hiroshima University**

**Collaboration Office of Education and International Office**

**〒739-8521 東広島市鏡山1-7-1**

**1-7-1 Kagamiyama, Higashi-Hiroshima, 739-8521**

**TEL: 082-424-6152・4638**

**E-Mail: [leading-program@office.hiroshima-u.ac.jp](mailto:leading-program@office.hiroshima-u.ac.jp)**

**URL: <http://www.hiroshima-u.ac.jp/lp/program/ra/>**